



今月14日にも福祉・児童センターで読み聞かせを実施

輝いています

「英語絵本クラブPEEK-A-BOO!」講師

ひと

あら い まさ よ
荒井 雅代 さん

英語を通して地域とつながる

Polar Bear, Polar Bear, What Do You Hear? と、英語で優しく歌いながら絵本を開いたのは、荒井雅代さん（43歳・中央2丁目）です。英語の絵本の読み聞かせを通じて、子どもたちどうし、子育て中のママどうしにつながりを広げています。現在、10歳と1歳3か月の2児の子育てに奮闘中の荒井さん。英語の絵本と出会ったのは、アメリカに留学した大学生の頃でした。日本の絵本とは一味違う鮮やかな色使いや個性を育む物語に魅せられ、瞬く間にそのとりに。当初は自らが楽しむために集めていった絵本は、やがて我が子が

の宝物となり、その数は50冊以上にも上ります。そうしたなか、一対一で読み聞かせするよりも、お友達といっしょのときのほうが、我が子の反応がよかったことに気づいた荒井さん。「多くの人の前で読み聞かせを行い、魅力を広めよう」と、決意しました。そして今年5月、市内の児童館などで活動をスタート。すると子どもたちはもちろん、乳児期から英語に親しむ機会を求めていたママたちからも大好評でした。今では「親子で楽しい時間が過ごせる」と、リピーターになる人も増えています。荒井さんの読み聞かせは、ときおり呼びかけながら、歌や手拍子を加えるなど、子どもたちの興味を引く工夫をしています。また、絵本の合間に子育ての相談や情報交換をするなど、ママどうしの触れ合いもたいせつにしています。

今月4日の『笑び』ってフェスタ2016（お知らせ版7ページ）では、紙芝居団体とのコラボで、英語の紙芝居に初挑戦します。地域での読み聞かせにより、「友人も増え、私自身が楽しんでいきます」と、荒井さん。その活動は身近なまちから世界まで、幅広い交流の懸け橋となることでしょう。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No. 7 —



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

「暁斎画談」より
「狩野家手初宝珠ノ図」

暁斎の口述を戯作者・瓜生政和がまとめ、暁斎自ら挿絵を描いた自画像が『暁斎画談』です（明治20年刊）。本書は、暁斎自身が学んだ古来の絵師たちの筆意にならない、暁斎が描いた「内篇」と、暁斎の伝記の「外篇」に分かれ、この「宝珠」は内篇の最初に登場します。宝珠は仏教の「如意宝珠」、つまりなんでも叶う玉のことで、火災が燃え上がるように描くものです。狩野派では入門して初めて習う題材として、更には正月の書き初めにもこの宝珠を描きました。

河鍋暁斎記念美術館

「狩野派 暁斎画塾 — 臨写ヲ以テ終ル —」展
同時開催「Respect! 暁斎。」展
期間＝12月23日(金・祝)まで

開館＝午前10時～午後4時
休館＝木曜日 ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般540円 中学生～大学生430円
小学生以下210円 詳細＝同館(☎441-9780)
(20人以上の団体は要予約)



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください